

Title	前号目次
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1957
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.50, No.1 (1957. 1) ,p.52(52)-
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19570101-0052

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

トはエリー運河豫定地沿いの土地の大部分を保留し、退職する迄保留状態においた。更に他の地域でも同じ頃大規模な保留を

していた事は明かである。Evans, Op. cit., pp. 254-255.

(8) 彼はこの點を特に力説してゐる。Ellicott Reports, I. pp. 381-384.

(6) 一七九八年、一八〇二年の試みは失敗している。一八一九年の場合は、會社側が不在地主への高額課稅法案と、オランダ人地主への次第に昂まる敵意に脅かされた爲であるが、其れを支持したクリントン派はそれから「政治資本」"political capital"を引出そうとした。右の詳しい事情は Evans, Op. cit., pp. 269-274. 及び Chap. IX. 参照。

(一九五六・一一・九)

三田學會雜誌

第四十九卷 第十二號 目次

論 說

國鐵運賃についての一考察……………増井健一
科學的管理法の總體的考察……………野口祐
經營政策論の展開への一試論……………關口操
黎明期のイギリス勞働組合運動……………飯田鼎

資 料

マルク・ブロックと歴史……………渡邊國廣

書評及び紹介

D. Hamberg, Economic Growth and Instability……………鈴木諒一

武藤光朗著『經濟倫理』……………氣賀健三

ヤコフツェフスキー著『封建農奴制ロシア 石川郁男譯』……………常盤政治

經濟學關係文獻目錄

資 料

最近における物價史研究の動向

渡 邊 國 廣

今世紀に入つての物價史研究の隆盛は、第一次大戦中と戦後のインフレーションで物價に對する關心が高まつたことに起因した。カーネギー財團による大戦史では物價事情が重視され、Bowley, L. Prices and Wages in the United Kingdom 1914-1920, London 1920 及び March, L. Mouvement des prix et des salaires pendant la guerre, Paris 1922 の二著が特に加えられた。他方で物價史の方法に對する理論的反省もあり、例えば Layton, W. & Crowther, G. An Introduction to the Study of Prices, 2nd. edition, London 1935; Fevre, L. "Le problème historique des prix," Annales d'hist. économique et sociale, 2 (1930) が目立した。そして、物價史に對するこのよくな關心の高まりは、ノーバートの學者 Gay, E. の提唱で、物價史研究のための國際的協力の必要から、International Scientific Committee on Price History が組織されるに及んで最高潮に

最近における物價史研究の動向

達した。その第一回會合は一九三〇年五月に開かれ、アメリカについては主唱者の Gay が、フランス、イギリス、ドイツ、オーストリア、オランダについてはそれぞれ Hauser, H., Beveridge, W. H., Elsas, J. M., Pribram, A. F., Posthumus, N. W. が中心で研究を進めることを決定した。議長は Beveridge であり、またポーランドで早くから物價の研究に従つた Bujak, Fr. や、スペインの物價に深い知識を持つ Hamilton, E. J. が、議長に加わり、委員として各自の専攻で研究を指導するよう委嘱された。委員の手でそれぞれ物價史の研究が進められ、相當の成果を挙げた。既にその一部は纏められ、Elsas の Umriss einer Geschichte der Preise und Löhne in Deutschland I. Leiden 1936, II. A 1940, II. B 1949 (Wagemann, E. Wholesale Prices in Germany from 1792 to 1934 Berlin 1935. はその前驅的研究)、オーストリアで Pribram の Materialien zur Geschichte der Preise und Löhne in Österreich, I. Wien 1933, フランスで Hauser の Recherches

五三 (五三)